

和歌山県内経済情勢報告

(令和8年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「緩やかに持ち直しつつある」(判断を据え置き)

項目	前回(8年1月判断)	今回(8年4月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→

(注) 令和8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にあるほか、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっているなど、全体としては、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回(8年1月判断)	今回(8年4月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	→
設備投資	7年度は前年度を下回る見込み	7年度は前年度を下回る見込み	→
企業収益	7年度は増益見込み	7年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、節約志向がみられることから衣料品の売上げが減少している一方で、飲食料品の売上げはおおむね横ばいとなっている。

コンビニエンスストア販売は、客単価の上昇の影響に伴い売上げが増加している。

ドラッグストア販売は、節約志向の高まりにより来店客数が増加しているほか、足下で季節商品の需要が堅調となっており、売上げが増加している。

ホームセンター販売は、暖冬の影響で冬物商品の需要が低調であったことから、前年の売上げを下回っている。

家電大型専門店販売は、値上げの影響や一部商品に駆込み需要がみられていることから、前年の売上げを上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車・小型車、軽自動車ともに前年を下回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、中国人観光客が減少している地域がみられるものの、観光客数が堅調に推移している。

(主なヒアリング結果)

- 物価高の影響で1点単価は上昇しているものの、節約志向の高まりによって買上げ点数が減少しているという状況が継続しているが、足下では1点単価の伸びが鈍化しつつある。(百貨店・スーパー)
- 物価高による節約志向の高まりの影響もあり、婦人服の需要が低調となっている一方、イベント開催時の集客数は好調で嗜好品の需要が高まっており、メリハリ消費の動きは継続してみられている。(百貨店・スーパー)
- 2月中旬以降、花粉症関連商品がよく売れているほか、3月に入って以降は紫外線対策商品の需要が高まっている。(ドラッグストア)
- 2月は気温が高かった影響でカイロやストーブなど冬物商品の売上げが低調となっていたが、3月は紙製品などの買上げ点数が増加したことから、前年の売上げを上回っている。(ホームセンター)
- 来店客数は減少しているものの、客単価が上昇していることから売上げは堅調に推移している。パソコン関連商品やゲーム機において、価格改定前の駆込み需要が一部みられていた。(家電量販店)
- 新発売車種の販売状況は好調である一方、金利上昇に伴うローン負担の増加が消費者の需要低下に繋がっていると感じている。(自動車販売店)
- テレビ放映の効果もあり、平日休日問わず国内観光客が増加しており、一部では、お守りが在庫切れになる状況も発生している。(公共団体)
- 外国人観光客について、中国人観光客は引き続き減少傾向にある一方で、円安の影響で他地域からの訪日客は堅調に推移している。(観光関係団体)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数でみると、「化学工業」などは上昇しているものの、「機械工業」などは低下しており、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 昨年末、取引先との間で価格改定を行ったことから売上高は増加しているものの、生産量でみれば前期比、前年同期比ともに横ばいとなっている。(金属製品)
- 中国国内の景気低迷や現地メーカーとの競合により、中国向けが引き続き低調となっている。(生産用機械)
- 製品によって生産量の増減はあるものの、ハンドソープなどの生産量が増加していることから、全体の生産量は堅調に推移している。(化学)
- 海外メーカーで生産される安価な製品に対抗して販売価格を引き下げた効果もあって、受注量が前年を上回る水準となっており、売上高も増加している。(化学)
- エネルギー関連製品については堅調に推移している状況にあったが、足下では、中東情勢の影響で輸送コストや原材料価格が上昇しているほか、今後の生産動向についても不透明感が強まっている。(鉄鋼)
- 中国向けのスマートフォン関連製品の受注について、メーカーごとの増減はみられるものの、全体としては前年並みとなっている。(電子部品・デバイス)
- 主力製品について、生産量は前年を下回る水準となっているものの、営業活動の効果もあって小売店での販売が普及してきたことなどから、販売数量でみれば前年を上回る水準となっている。(食料品)

■ 雇用情勢 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

有効求人倍率は、低下傾向にあるものの、求人が求職を上回って推移している。また、新規求人数は、おおむね横ばいで推移しており、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 中国の訪日渡航自粛要請の影響によって、「宿泊業、飲食サービス業」の一部の企業からは求人を出し控える動きがみられているものの、「建設業」や「運輸業、郵便業」などでは求人数が増加している。(公的機関)
- 現在、従業員数は適正であるものの、製造現場に従事する人材の獲得競争が激化していることもあり、将来的な人手不足対策も踏まえて、DXへの投資を実施している。(鉄鋼)
- 現場作業員が不足しており、従業員の残業時間が増加してしまっている。また、先行きについては、受注の増加を見込んでいるものの、現状の人員で対応できるかは不透明な状況である。(はん用機械)
- 従業員の高齢に伴う定年退職者の増加や、若い従業員の離職などによって従業員数が減少傾向にあるため、DXの活用などによって、省人化の取組みを進めることで、人手不足に対応している。(百貨店・スーパー)
- 業界全体で施工管理の人手不足が続いており、人材確保が困難な状況にあるため、今後、工期の遅れが生じる可能性がある。(不動産)
- 域内の宿泊施設において、人手不足が課題となっているが、人材マッチングサービスやシルバー人材センターなどの活用によって、人手の充足を図っている。(公共団体)

■ 設備投資 「7年度は前年度を下回る見込み」

法人企業景気予測調査(令和8年1~3月期調査)でみると、7年度の設備投資は、全産業で前年度を下回る見込みとなっている。産業別では、製造業で前年度を上回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を下回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「7年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査(令和8年1~3月期調査)でみると、7年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業で黒字転化見込み、非製造業で増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を上回っている。内訳でみると、持家、分譲で前年を下回っているものの、貸家で前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、市町村で前年を上回っているものの、国、県、独立行政法人等で前年を下回っている。

■ 企業倒産 「前年を下回っている」

倒産件数は、前年を下回っている。

■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査(令和8年1~3月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、非製造業で「下降」超となっている。

規模別では、大企業で「上昇」超、中堅企業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、中小企業で「下降」超となっている。